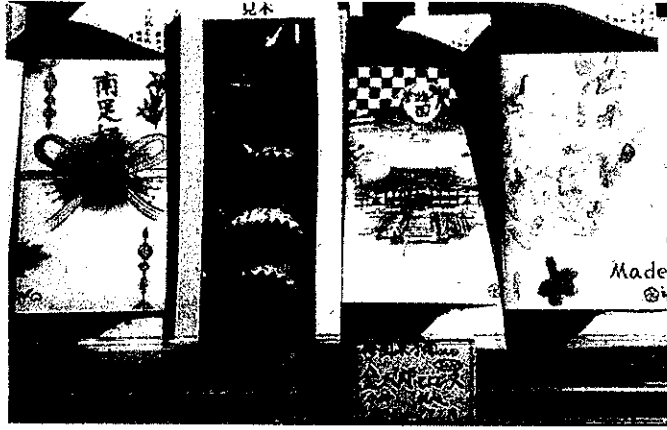


デザイン画 掛け紙に採用

足柄台中生徒の4作品 道の駅で販売

南足柄市の道の駅「足柄・金太郎のふるさと」(同市竹松)で取り扱う商品に、市立足柄台中学校(瀬戸雅史校長、同市竹松)の3年生の絵画作品が活用されている。道の駅は26日にグラウンドオープンしたばかり。地域密着型の食品を豊富に取りそろえる。



作品は「金太郎マドレーヌ」(原市栢山)の商品で、

店頭で並ぶマドレーヌ。掛け紙のデザイン画を生徒たちが考案した

生徒のデザインした絵柄4点が目立つように包装され、来店客の注目を浴びている。原材料には、地元生産者が丹精込めて育てたミカンが使われている。足柄台中校歌の歌詞にもミカンの一節があり、1番の歌い出しは「学びの窓は純白のみかんの花が飾る窓」。さまざまな面で南足柄と関係する商品。掛け紙の制作は、美術を担当する深見まき子教諭と大井町金手二科展最高賞の深見教諭が指導した。和菓子製造販売を手掛ける梅園(小田原市栢山)の商品で、

深見教諭は「美術の授業と地域をつなげた」との思いが強く、掛け紙制作に力を入れて取り組んだ。道の駅が足柄台中の学区内にあるという事情が

市教育指導課によると、生徒たちはデザインを考案するに当たって、市商工観光課職員や道の駅指定管理者のTTC、梅園の各社員から説明を受け、イメージを膨らませたとい

う。地元風景が感じられる絵を水彩で描いた。デザイン画は、矢倉岳を背景に咲く紅梅、梅の季節の大雄山、最乗寺の仏閣、色とりどりの紅葉の葉など。作画的コンセプトは雄大な自然を描く

足柄台中は学校公式ホームページに25日、生徒たちの作品が掛け紙として採用された情報をアップした。4人それぞれが作画的コンセプトも紹介している。生徒たちは、「とてもうれしくて、しばらく胸がドキドキしました。自分の描いた絵が素晴らしい商品の掛け紙になり、とてもうれしいです」とコメントしているという。

このほか足柄台中とミカンをめぐっては、校章にも深い関係性がある。3枚のミカンの花びらを図案化して制作され、知恵、思いやり、たくましさの願いがこめられている。「西さがみ 自然とともに」(金曜日掲載)

神静民報
R2.6.28